

(お知らせ)

柏崎刈羽原子力発電所3号機シュラウドの点検終了について

平成 15 年 1 月 15 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

当所3号機(沸騰水型、定格出力110万キロワット)は、8月10日からの定期検査において、シュラウドの各溶接線について水中カメラ^{*1}を用いた目視点検(VT)および同点検により確認されたひびの超音波探傷検査(UT)を実施してまいりましたが、本日、全てのシュラウドの点検が終了しましたのでお知らせいたします。

これまでの点検により、下部リング外側溶接線(H6a)近傍のほぼ全周にわたり部分的に点在する小さなひび、およびシュラウドサポートリング内側溶接線(H7a)近傍のほぼ全周にわたり断続的に存在するひびを確認しておりましたが、他の溶接線にはひびは確認されませんでした。
(8月27日、12月5日、12月17日お知らせ済み)

ひびが確認された部位についてUTによる調査を実施したところ、H6a外側近傍のひびについては、指示エコーから深さは最大約11mmであると評価しました。
(9月27日お知らせ済み)

H7a内側近傍のひびについては、指示エコーから深さは最大約15mm^{*2}(ひびが発生しているシュラウドサポートリングの厚さは約70mm)であると評価しました。指示エコーの周方向合計長さを算出した結果は約12.7mで、これは当該部の全周(約15.7m)に対して約81%^{*3}の割合となります。

以上

- * 1 点検に使用している水中カメラは、10～30cm離れた距離から直径1/1000インチ(25.4/1000mm)のワイヤが識別できる程度の精度を持つものです。
- * 2 当該溶接線のひびについては、ポートサンプルを採取のため先行してUTを実施しており、11月22日時点での確認範囲(全周の約30%)における最大深さは、約12mmであると評価しております。(11月22日お知らせ済み)
- * 3 約81%にはUT点検不可範囲(約0.5m)を含んでおりません。なお、点検範囲におけるひびの割合は、約84%となります。